

日光医療センター通信

～いろは～



獨協医科大学日光医療センター
Dokkyo Medical University Nikko Medical Center

第

49

号

2024.5



霧降高原のツツジ（栃木県日光市）

主な内容

新病院長挨拶	2
診療紹介（糖尿病・内分泌内科）	2
部門紹介（HCU病棟）	4
外来担当医一覧	5
はせがわ整形外科クリニック	6



新病院長挨拶



獨協医科大学日光医療センター
病院長 山口 悟

2024年4月より獨協医科大学日光医療センターの病院長を拝命いたしました山口悟と申します。日光医療センターは、獨協医科大学第3の病院として、2006年に国立珪肺労災病院から移譲され日光市高德に誕生いたしました。そして、2023年1月1日に日光市森友へ移転新築しております。

当院は、地域社会の信頼に応える基幹病院として、医療を求める人々におもいやりの心を持って接し、安心・安全かつ高度で良質な医療を提供することを基本理念としております。地域医療の拠点として、地域の皆様に貢献できるよう努めています。

私たちは、医科大学附属病院として医療の高度化・多様化に対応すべく、最新の医学技術と最先端の医療機器を備え、中規模病院の小回りの良さを利用して、地域が求める急性期医療と高度医療、そしてリハビリテーションを切れ目なく提供します。特に地域が求める急性期医療には全力で取り組み、「救急車を断らない病院」として地域の皆様から頼られる病院を目指します。

許可病床は199床で呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、膠原病・アレルギー内科、心臓・血管・腎臓内科、皮膚科、放射線科、病理診断科、外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、整形外科、脊椎センター、泌尿器科、形成外科・美容外科、麻酔科、眼科、救急・総合診療科、リハビリテーション科の21診療科を開設しております。

移転後に行った新たな取り組みとして、より高度な医療を提供するための高度治療室High care unit(HCU)の開設、高齢化が進む地域のニーズに応えるために眼科を新設、多種多様な疾患を総合的に診るために救急・総合診療科を新設、また情報通信技術の積極活用やデジタル化により安定かつ効率的に医療を提供できるよう取り組んでいます。

今後も、当院は地域医療連携をより顔の見える密接な連携となるよう強化し、より多くの患者さんに質の高い医療を提供してまいります。皆様からこの病院で治療を受けてよかったと思っただけのよう、職員一同、信頼される病院を目指し更なる研鑽に努めてまいりますので、今後も一層のご支援をいただければ幸いです。

2024年4月

診療紹介 シリーズで当センターの診療内容についてご紹介いたします。

▶ 糖尿病・内分泌内科

【当科の特徴・特色】

当科は2009年4月より前診療科長である伴場および中谷の2名が獨協医科大学本院より異動し独立した診療科として診療を開始しました。2009年度は8,433人/年の外来患者数でありましたが、地域の皆様や開業医の先生方からご紹介も増え2022年度は13,395人/年まで患者数は増加しております。また従来は日光地区・塩谷地区の患者様がメインでしたが、現在の新病院移転に伴い最近では宇都宮地区、鹿沼地区からも患者さんが通院されております。

当科は糖尿病や脂質異常症をメインとした代謝疾患および下垂体、甲状腺・副甲状腺、副腎、性腺といったホルモンを司る臓器の疾患である内分泌疾患を主に扱っており以下に各疾患に対する当科の治療の特徴を示します。

1. 糖尿病

最新の調査では糖尿病の強く疑われる人は1,196万人、可能性を否定できない人は1,055万人であり合計2,251万人の方が糖尿病を否定できない状況となっており（2019年国民栄養・健康調査）、まさに国民病と言うべき状況となっております。糖尿病には大きく分けて1型糖尿病、2型糖尿病、その他の糖尿病の3つのタイプがあります。なかでも1型糖尿病は血糖値を下げるインスリンというホルモンが枯渇する事で発症するためインスリン注射が必要であります。従来は1日4～5回のインスリン注射が必須でありましたが、欧米ではインスリンポンプ療法が主流となっており当科でもインスリンポンプ療法の導入を含めた治療を行うことができます。2型糖尿病に関しては最新の海外のガイドラインに従った治療を主としており、日光地区にいながら世界標準の最新の治療を行う事が出来ます。

2. 脂質異常症

令和4年の厚労省の報告では検診受診者の31.6%に脂質異常を認め検診で再検査となる最多疾患であります。脂質異常症だけではすぐに身体に異変はきたしません、長い期間放置するとアテローム性脳梗塞や狭心症、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症といった動脈硬化性疾患を発症するため早期に診断・治療の開始が重要です。また脂質異常症の中には甲状腺疾患が潜んでいることがあります、当科では初診の患者様は甲状腺機能の検査を行うことで甲状腺疾患の見逃しを防いでおります。さらに日本人における最多の遺伝性疾患である家族性高コレステロール血症に対し、当科医師の中谷は日本動脈硬化学会の指定する紹介可能医師に指定されており診断・治療が可能です。

3. 下垂体疾患

下垂体腫瘍による下垂体機能異常症に対する診断・治療が主です。当院は脳神経外科が無いため下垂体腫瘍の手術はできませんが、術後のホルモン補充療法等是对応可能です。また尿崩症やプロラクチン分泌過剰症等内科的加療のみの方も診断・治療を行っております。

4. 甲状腺・副甲状腺疾患

甲状腺ホルモンが過剰となるバセドウ病や亜急性甲状腺炎、ホルモンが不足となる橋本病の診断・治療はもちろん、甲状腺癌の診断も可能です。甲状腺癌が疑われる場合は超音波ガイド下細胞診を行うことで診断しますが、甲状腺癌の診断がついた場合は当院外科のみならず患者様の希望の施設で紹介させていただきます。他施設で癌の手術をした方であっても術後の甲状腺のフォローを行うこと可能ですので、その場合は紹介状を御持参ください。また原発性・続発性副甲状腺機能異常症診断が治療および悪性腫瘍による高カルシウム血症等にも対応しています。

5. 副腎疾患

高血圧患者の10%を占めると言われている原発性アルドステロン症の診断・治療が特に得意であります。当院は県北・西地区において唯一の副腎静脈サンプリングができる施設であるため、これらの地域からも患者さんの紹介があります。また当院泌尿器科において原発性アルドステロン症の手術も可能なため当院で診断から治療までまとめて行うことが可能です。また診断機器の進化により偶然発見される副腎腫瘍がありますが、当院では1週間前後の入院にて副腎機能評価を行っています。

6. 性腺疾患

当科で治療している性腺疾患は下垂体性による性腺疾患が最多です。さらに最近注目され始めた男性更年期の診断・治療も行っています。

【診療体制・研究等】

患者さんの増加に伴い診療体制も充実してきており、現在は伴場、中谷に加え獨協医科大学本院から岸医師が出向し、3名の常勤医体制で診療を行っています。当院には糖尿病専門医・指導医・甲

状腺専門医が複数在籍していますが県内で上記専門医が常勤医として複数人在籍する医療機関は当院以外では獨協医科大学病院のみとなっております。さらに当科は日本内科学会、糖尿病学会、内分泌学会の定める専門医教育認定施設となっております。また医師の診療をサポートする体制も充実しており日本看護協会の定める糖尿病認定看護師1名、日本糖尿病協会の定める日本糖尿病療養指導士10名、栃木県糖尿病療養指導士25名と多数在籍しており、こちらも県内屈指の人数となっております。

研究に関して主に循環器内科やリハビリ科と協力して臨床研究を行っており、研究成果をアメリカやヨーロッパで発表し論文もアメリカ糖尿病学会やフランス糖尿病学会の学術誌を中心に複数採択されております。

最後に我々の扱う疾患は自覚症状が少なく治療が遅れてしまうことが多いのですが、早期診断、治療を行うことで疾患を有しない方と同じ生命予後や合併症を減らすことができる可能性があり、少しでも上記疾患が疑われたり、心配な場合は早期受診をお勧めします。

部門紹介 シリーズで当センターの各部門をご紹介します。

▶ HCU病棟

2023年1月の移転に伴い、HCU病棟4床（陰圧部屋1床、オープンベッド3床）が新設されました。HCUとは「High Care Unit」の頭文字をとったものであり、日本語では「高度治療室」と言われています。HCUに入室する患者さんは①救急外来、救急車等から来院し直接入室②手術目的で入院し術後管理のために入室③一般病棟から状態変化による入室、の3パターンに分けられます。

特定看護師1名と現在研修中1名を含む看護師16名、看護補助者1名の総数17名の看護職員で構成され、看護体制：24時間を通じて患者4人に対し看護師1人が配置されています。各疾患の急性期や重症期など重篤な状態にある患者さんに対し、幅広い知識と技術をもって看護を提供するよう心がけています。また、重篤な状態の患者さんのご家族へ精神的ケアの実践も行っています。様々な疾患をお持ちの患者さんに看護を提供するために、スタッフは定期的に部署内では勉強会を開き、また休日は院外での勉強会や学会に参加するなど日々研鑽に励んでいます。

また、救急・総合診療科の医師と連携し、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、医療メディエーターなど多職種との連携を図り、治療が円滑に進み一日も早く回復できるよう援助させていただいております。



私は、獨協医科大学の10期生です。卒業後、獨協医科大学整形外科教室に10年間在職し、1999年8月、宇都宮市一条町にはせがわ整形外科クリニックを開業しました。

メスを下した時、私の整形外科医としての人生は終わったと思っていました。しかし患者様は、手術をしなくても、リハビリテーションによって日常生活をある程度不自由なく過ごすことができる事を学びました。以後リハビリテーションに力を入れています。

一方予防医学にも力を入れ、病気やケガをしない体作りのリハビリテーションも行っています。明らかに手術が必要な患者様は、獨協医科大学日光医療センターにいつも受け入れていただきとても感謝しております。

獨協医科大学日光医療センターには、一般整形外科診療以外にも栃木手外科クリニック（長田伝重教授）、脊椎センター（南出晃人教授）という専門外来もあり安心して紹介できます。術後は執刀医と密に連絡を取りながら、当院にてリハビリテーションを行う事により、患者さんがより早く日常生活に復帰できるようにしております。

私は在学中、全日本女子バレーボールチームの仕事に携わってきました。以来多くのスポーツ選手の治療を行ってきました。いかに早く選手をケガから復帰させるか、又ケガをしない体作りをしながらチーム練習を行うか、30年以上勉強してきました。その結果多くのスポーツ選手が県内外から来院しています。

私が御世話になった栃木SCチーム（サッカー）、宇都宮ブルックス（バスケットボール）、宇都宮ブルツ（ラグビー）種目は異なりますがケガの治療予防の考え方はみな同じです。これからは今まで御世話になった地域の人々へ、私が経験してきた事を恩返しできればと思います。



はせがわ整形外科クリニックは、患者様を一番に考えホスピタリティーを持って、スタッフ全員が同じ方向を向いて、ベクトルを合わせて進んでいきます。これからも宜しくお願いします。感謝しております。ありがとうございました。

編集後記

先日、我が家の雛祭りでは、祖母から頂いた雛人形を飾って祝いました。桃の節句も過ぎ、ついに春本番ですね。私の長女は4月で受験生となり、毎日夜遅くまで机に向かって黙々と勉強をしています。なるべく邪魔にならないようにと、私も一緒に横で勉強しています。医療や看護は日々進歩しており、追いつくのが精一杯な今日この頃ですが、患者さんに安全で良質な医療や看護を提供できるように日々精進していきます。来院した際には、何か気になることがあれば、いつでもスタッフにお伝えください。（Y.F）

日光医療センター
Facebook
<https://www.facebook.com/dokkyo.NikkoMedicalCenter/>



<https://www.facebook.com/dokkyo.NikkoMedicalCenter/>

日光医療センター通信 ～いろは～ 第49号

〒321-1298 栃木県日光市森友145-1 TEL 0288-23-7000(代表) FAX 0288-23-5000

<https://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/>

発行年月日/令和6年5月00日

編集・発行/獨協医科大学日光医療センター
広報・マーケティング委員会

印刷/株松井ピ・テ・オ・印刷

看護師募集サイトはこちら

<https://www.dokkyomed.ac.jp/>

[nmc/recruit-nurse/](https://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/recruit-nurse/)

または、右記のQRコードを読み取り
アクセスして下さい。

